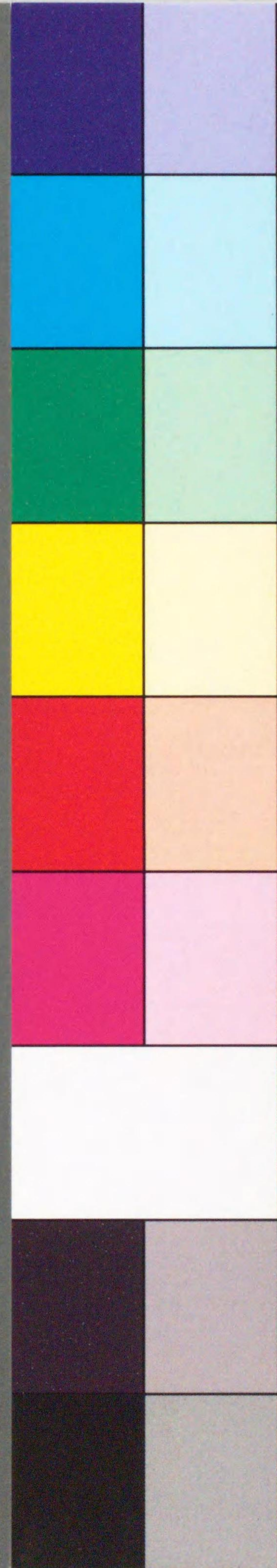


Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Y994-J2545
1200700971364

社員教養資料 第三輯

國際情勢と日本

鐵道總局人事局厚生課

Y994-J2545

(以印刷代謄寫)

社員教養資料 第三輯

國際情勢と日本

同盟通信社參與 伊藤正徳氏述

Y994

J2545

は
し
が
き

本書は昭和十四年八月奉天記念會館に於ける滿鐵興亞夏期大學の講演速記である。
之を印刷に附し宏く頒布社員教養の資とする次第である。

昭和十五年五月

鐵道總局人事局厚生課



I 種
W



1200700971364

戦略的に見た歐洲大戦

はしがき

昨年夏期大學に於ける外交講演は、大戦勃發により事情が變り、いはゆる舊聞に過ぎますので、茲に最近東京で試みた講演を以て之に代へることに致します。その爲にプリントが遅れたことを謝します。

一

之から、歐洲大戦の實體を戦略的に考察して見たいと思ひます。戦略と申しますと、戦術と異つて、範圍が非常に擴大され、軍事方面は勿論、政治、外交、經濟、文化の各方面に於ける政策の綜合を意味することになります。

この戦略を決定し、これを支配するものは大體一國の政治家が爲すべき大きな問題であります。その點で軍事に限られた戦術とは判然と區別して考へるべきものであります。近頃は戦術を狭く考へてゐる者もありますけれども、大體非常な廣汎な意味を有つたものであります。政治的に例を申し上げますと、この前の世界戦争に於てはイギリスは戦時内閣といふものを編成して、五人の大臣が特に戦争遂行に關する一切の政策を決定し命令したのです。日本でも近衛内閣の終りに五相會議なるものが設けられ、更に平沼内閣に依つて繼承され阿部内閣に至つては、少數内閣制といふやうなものが主張され又首相の權限強化が一部實現されました。これらも戦略的手段としての政治形體であると思ふのであります。その運用が果して宜しきを得たかどうかは皆さんの御判斷に一任しますけれども、形としてはこれも亦た戦略の一部であることを證明してゐる一例であります。

一

外交はまた戦略の最も重要な部分でありまして、その目的は自分の味方を一國でも多く増やし、さうして敵を孤立させるといふことが戦略外交の目標であることは更めて申すまでもありません。第一回の世界戦争に於きましてはイギリスは最後には三十數ヶ國の味方を有つたのであります。この外交上の成功が戦勝の上に重要な効果を擧げたことも亦更めて申すまでもないと思ひます。顧みて日本の外交が戦略的にどういふ風に運用されたかといふことは、これ亦私から申上げるまでもなく皆さんの御判断に一任して間違ひないことと信じます。

それから軍需品の供給とか、國民生活の保障、物資の生産、配給等々、それらは皆さんの御關係になることではありますが、これらが戦争遂行の上に重要な影響を有つてゐることは亦申すまでもありません。

文化的には精神總動員とか、言論統制とか、或は宣傳とか、さういふものが戦略の一部となる譯であります。最後に軍事的には戦場に於ける作戦が數へられます。これは戦争の勝敗に最重大な關係がありますが、しかもひとり兵力だけが勝つてゐるといつても、それだけで戦争の勝敗を決すことにはなりません。政治組織から外交、經濟、文化それらの要素を比較して、戦争がどういふ方向に動き、どちらに勝ち味があるかといふことを判断する譯であります。その今回の戦争の戦略的背景の前提としまして、簡単にこの戦争の本質とでもいひませうか、今回の戦争が英獨の爭覇戦であるといふその本質に關して簡單にお話を申上げる必要があると思ひます。

一一

今度の戦争は戦略的に見ますとドイツの東漸政策、所謂ドラング・ナーハ・オステン (Drang Nach Osten) の政策とイギリスの大陸國防政策、この二つの政策の衝突であるといふ定義が下されると思ふのであります。大體ドイ

ツの東漸政策といふものはドイツあつてこの方一貫して存在する政策であります。又イギリスの大陸國防政策といふものも、三百年の歴史を有つた傳統的な政策なのであります。この二つの政策は何時かは衝突し、又は妥協し、而うして又争ふといふ風な一つの宿命を有つたやうに考へられるのであります。

大體國家には個人の場合の如く一つの性格といふものがあるやうに思はれます。吾々の人格に對して國家にはステート・キヤラクターとでもいひませうか、例へば日本には東亞の大陸に進出するといふ傳統的の政策が昔から存存して居ます。

神功皇后、豊臣秀吉の時代は暫く措いて明治に入りまして今日まで幾度か大陸進出といふ政策がその時の有力な政治家に依つて企てられ、結局今日の實行となつて現はれたのであります。これはその國の有つ、性格であつて換言すれば戰略地理的關係から來る國家の性格とでも申しませうか、ドイツの場合はフレデリック大王からビスマルク、それからカイザーを経てヒットラーに至るこの長い間、この政策は一貫して居るのであります。ヒットラー總統は最初はさういふことを噓にも出さなかつたし、又さういふことを考へて居らなかつたでせう。併し乍ら結局ドイツを率ゐまして世界に立つ場合にはこの東漸政策といふものに引摺られ、結局その方へ進んで行くといふことになるのであります。昨年九月、ヒットラー總統は、歐洲には自分は領土的野心はない、ポヘミアを合併すればこれがドイツの歐洲に於ける領土的要求の最後のものであると宣言したことは皆さんまだ記憶される所でありませう。併し乍らそれはドイツの人格の活動といふものは決して停止しません。結局ポーランドへ行き、それから更に東に進んでバルカン近東に及ぶといふのがドイツに與へられた發展の運命なのであります。

丁度このチェッコスロヴァキアの問題の最中、日本の新聞紙にも度々傳へられましたが、「ポヘミアを制するものは

歐洲を制す」といふビスマルクの言葉が結局今日も眞理となつて現はれて居る。これはビスマルクが戦略的にボヘミアを制すれば歐洲を制するといふことをその備忘録の中にも書いて居りますが、遡つてダンチツヒの場合はどうかといふと、その前はフレデリック大王は「ダンチツヒを制するものはワルツの君主よりも遙かに有効にポーランドを治む」といふことを云つて居るのであります。このフレデリック大王時代のその政策、その考へ方が今日のヒットラーに依つてまた同じやうに追求されて居るといふことを吾々は知るのであります。結局人間はその時代で色々考へ方を異にすることもありますが、國家に與へられた約束といふものはその人間が動かすことの出来ない大きい力となつて、その國の外交を率ゐて行くやうに思はれるのであります。さうしてドイツの此の東漸政策は結局イギリスの外交とどうしても衝突をしなければならぬ運命にあるのであります。

イギリスの場合はスペイン戦争の昔から今日に至る迄、歐洲大陸に最大強國を作るなどいふ國家の不文的憲法が存在して居るのであります。スペイン戦争は色々複雑した關係もありますがピットが二十年に亘つてナポレオンと争つた根本の理由は、歐洲大陸にフランスといふ、絶對強國が出現することはイギリスの爲に非常な脅威であり、結局イギリスがやがて滅される前提となるんだ。かういふ風な見地から、先づ自分を護る爲には歐洲に最大強國を作るな、かういふ政策を立て、さうしてそこで二十年に亘つてナポレオンと争つた。その思想は世界大戦の場合、イギリスがドイツに向つて宣戦をした一九一四年の八月も同じであります。今回も亦それと同じ理由でイギリスは起つたのであります。唯前回はベルギーの爲に、今度はポーランドとの約束といふ理由はありますけれども、根柢は歐洲に最大強國を作るなどいふイギリスの國家の性格の現れとして起つたのであります。

結局、歐洲にさういふ大國が出來ればその次に來たるものは、今度はイギリスの富を失敬しようといふ野心を持つ

ことは當然であります。その國がドイツであらうと、フランスであらうと、或はイタリーであらうと、ソ聯邦であらうとイギリスから見ればその間には大した差はないのであります。丁度一九二〇年から三〇年の間はイギリスは蔭になり日向になつてドイツの復興を援け、さうしてフランスの膨脹を抑制しようと努力したのであります。今日でもイギリスの或る批評家は、ドイツの今日の軍備は半ばイギリスが作つてやつたと云ふ位に、イギリスはドイツの秘密軍備その他産業上の復興に多大の援助を與へたのであります。これもフランスが或は歐洲の最大國になりはしないかといふことを感じて、それを牽制する爲にドイツを援けたのであります。今回はドイツが將に歐洲大陸を制覇しようとする勢ひを示して居りますから、フランスを援けてこれを抑制しようとしたのであります。結局イギリスの國防政策の傳統、それからドイツの東漸政策の傳統とが、こゝで衝突したものでこの國家の性格が改まらない限り歐洲戦争は決して今回だけで終るものでもなく、又吾々が生きて居る間に第三回の歐洲戦争が起るかも知れない運命にあるのであります。

三

大體今回の戦争の本質はかういふ譯であります。これから戦略の各部門に就て英獨の兩者を比較して行きたいと思ひます。先づドイツから考へますとドイツは皆さんの御承知のやうに戦はずして失はれたる領土を回復しよう、即ち孫子が「戦はずして人の兵を屈するものは善の善なるものなり」といつたあの孫子戦略の第一條をヒットラーも亦同じやうに遂行しようと思つた。それは最近までは著々として成功して來ました。第一はザール地方の民族自決の問題、第二は一九三五年のヴェルサイユ條約の軍事條項の破棄で、これらは明かにヒットラー外交の成功であります。

條約を破棄したことは成功であるといふよりは、列國の戦線が一致しない所を見計つて、これを宣言し、斷行して何等の抵抗を受けなかつたといふのがヒットラーの成功。第三に一九三六年の三月にラインランド地方の非武装地帯を武装化したことは更に大きい成功であります。これは今日の戦争と直接の關係のある戦略上の大きな出来事でありませぬ。今日の有名なるジグフリード要塞線といふのは、大部分このラインランドに築かれて居るのであります。ラインランドはドイツの國防上最も重大な地方であり、嘗てパリ講和會議に於きましては、フォッシュ元帥はラインランドの合併を主張し、これをフランスに戻せといふことを主張し、クレマンソーも亦これを主張したのであります。ところが、ウイルソンやロイドジョージの反對があつて、領土の併合といふことは行はれなかつた。そこでこれを非武装地帯としてドイツの所有下に置いたのであります。このラインランドが武装されない限り、ドイツの國防は常に危険に晒され何時英佛軍の侵入に遇ふか分らないやうな状態にあるのであります。従つてこのライン地方が戦略的に不安である限り、ドイツはチェッコスロヴァキア或はポーランド、或はその他の國に向つて政勢を執ることが出来ないのです。このラインランドに兵を進めることに就てはその當時ドイツの參謀本部は眞向から反對した。といふのは、それ程軍事的に重要な方面であるからして、若しドイツがこれを行つたならば、尠くともフランス軍は直ちに實力を以て攻撃して来るであらう。若しフランスが實力を以て攻撃して来れば遺憾乍らドイツはその時は太刀打が出来ないといふので、皆なヒットラーに反對した。そこでヒットラーは「よくその旨は判つた、實は自分はフランスの人民戦線内閣の状態、それからフランスとイギリスの關係その他を考へ、フランスには恐らくさういふ決心はつくまいと自分は考へる、そこでこれをやつて見るんだが、若し自分の豫想に反してフランス軍が動員して進撃を開始したならば、自分は一令の下にラインランドから軍を引く決して兩國の間に戦争は起させない兵を收めて外交交渉に移る積りであります。」

「といふことを約束しました。それならば試みに行はふといふので、三月九日鞭聲肅々ライン河を渡つてこれを斷行した。ところがヒットラーの考へが圖に當つて、英佛は言葉では嚴重な抗議をしましたが、遂に一兵も動かさずになりました。そこでラインランドがドイツの自由武装地帯となつた。その翌月からあのジグフリード線の建設が開始され、これが二年の後大體出来上つたのでそこであのチェッコスロヴァキアの問題が提起されたといふ次第であります。詰り戦略的にはこれを利用して西部では守勢を執り、東に向つて放勢を執る戦略がこれに依つて實行された譯であります。さうしてチェッコスロヴァキアは血を流さずして併合する。今度はポーランドの番に廻はつて來たのであります。」

本年の一月、ヒットラーはポーランドのベック外相との話にダンチツヒの問題などは全くの地方的問題だ、一兵の血にも償ひしない、それでドイツとポーランドが依然不侵略協定に結ばれた親善國であるといつて杯を擧げて不可侵條約を謳歌したのであります。その肚の底にはこの次は血を流さずしてお前の方の一部分を失敬する積りであるといふ考があつたのであります。ベック外相は多少それを懸念して居つたのであります。ところが三月突然今度はチェッコ及びスロヴァキアを夫だらうと考へ、自分もシャンペンなんか飲んで引揚げた。ところが三月突然今度はチェッコ及びスロヴァキアを合併してしまつた。ボヘミアだけでこれ以上領土的野心はないと宣言してから半歳を出でずしてまた領土的野心を現はした。そこでポーランドは、これはもう愈々いかぬ、ドイツとの約束だけでは國防は全うし得ないといふので、最後の手段としてイギリスに頼ることになつたのであります。ドイツから見れば、それにしても尙ほポーランド問題を血を流さずして解決しよう、ダンチツヒと上部シレジアとそれから廻廊の三問題を無流血で解決しようと思つてゐた。これが解決出来れば所謂戦はずして人の兵を屈することであつて、戦略上の大成功であります。ポーランドがイギ

リスについて了つては簡單には片づけ得ない。そこで日本との同盟問題が俄かに大問題と化して來たのであります。この日獨間の同盟交渉はドイツから見れば、ポーランドがイギリスについたけれども、イギリスを起たせない爲には何が一番いゝか、それは日本との間に無條件軍事同盟を結んでイギリスを牽制することが即ち血を流さずにポーランドへの目的を達する途である。かういふ風な戰略上の理由から起つたものと想定されるのであります。日本は専ら支那事變とソ聯關係とから同盟を考へたやうですが、ドイツはイギリスを牽制し、之に依つて血を流さずにポーランド問題を解決するといふ點にあつたやうであります。

ドイツはイタリーとの同盟を世界有史以來の完全なる同盟として本年の五月に發表した。條約の文面を見れば、一方が戦争を開始した場合には直ちに參戰するやうな完全なる無條件軍事同盟であります。今日に至るもイタリーは一兵をも動かして居りません。これは只今申上げましたドイツの日本に對する交渉が、これに依つて戦争を起さず自分の目的を遂げる牽制用の手段であつたらうといふ想定を裏書するやうに思はれるのであります。

またドイツは日本と交渉する一方でソ聯邦と長い間交渉して居た。これもドイツから見れば英佛牽制手段であり、其爲には日本もソ聯も同じもの、國は違ふけれども、その目的に使ふものとしては甲乙ない國であることが明かとなつた譯であります。その目的は一に全く無流血擴張を遂げる手段に外ならなかつたのであります。さてソ聯邦を遂に味方に引入れてこれで一安心、イギリスもソ聯がこつちへ入つてしまへばポーランドの爲に恐らく起つことはあるまい、かういふ風に考へた。斯くの如くドイツが行つた外交は全く戰略の一部として行はれて來たといふことを茲に明らかに理解することが出来る譯であります。

一方にイギリスの外交は、あの外交上手と言はれたイギリスとしては、上手の手から度々水が漏れてこれも戦争を

しないでドイツの東漸政策を抑制しようと思へ、その爲に對獨包圍陣といふものを作りつゝあつたのであります。ソ聯邦に寢返りを打たれ到頭完全なる態勢を整へることが出来ないで戦争になつてしまつたのであります。今日の兩國が有つてゐる外交上の地位、その優劣如何といひますと、これはこの前の戦争と比較するんであります。この前の戦争では何しろソ聯邦はドイツの真正面の敵である。あの一九一四年の八月ドイツの大軍がフランスに侵入して、その騎兵の一隊はパリーの郊外に現はれたといふまでに迫つた。それが九月六日から十三日までのマルヌの大會戦に依つて撃退された。そのドイツ軍の第一回の敗北の裏にはソ聯の大軍が今の東プロシヤ、ダンチツヒ、この方面に大舉侵入してドイツの國內が將に物情騒然、國民の不安が非常に濃厚であつた爲に、相當の兵力を東部戰線に割かなければならなかつたのが間接に大きな原因となつてゐるのであります。そのソ聯が今日では味方とは云ひ得ないにしても尠くとも、敵ではありません、兩國の將來は姑らく別問題として、現在では兎に角ソ聯が物資をドイツに供給するといふ約束が出来て居るのでありますから、或る程度迄ドイツの味方であるといふ立場にある。反對にその當時自分の味方であつたトルコは今日反對の陣營に加はつて英佛側についてゐる形であります。そこでまア外交上の状態はこの前の戦争に比して幾分ドイツに有利のやうに見られますが、更に前回は日本がイギリス側にあり今日は日本が中立の状態にあることを思ふとドイツの方が有利な立場にあることは明かであります。

四

その次に國內の状態所謂ホーム・フロントはどうかを考へて見ませう。先づイギリスから申上げますと、イギリスは非常ないゝ状態に於て戦争に起つたのであります。この前の戦争當時にはイギリスは内政上幾多の難問題に直面し

て居りまして、例へば産業界のトリツプル・アライアンスと呼んで居つた炭礦組合、礦山組合、それから機械工組合、この三大組合が八月を期して總ストライキを實行するといふ場面に迫つて居つたのであります。それから自由黨の分裂の危機と同時に、労働黨は宣戦後尙ほ戦争に反対した後に總理大臣となつたマクドナルド、それから後に大藏大臣となつたスノーデン、この兩君は議會に於て幾度か戦争反対の演説をした。スノーデンが立つと保守黨の席からヘル・フォン・スノーデン(Herr von Snowden)といふやうな彌次がひつきりなしに飛んだといふ位の状態でありまして、労働黨は反戦的であつた。従つて労働界一般にも戦争反対の氣分が相當に流れて居つた。國民はまたまさか戦争にはなるまい、御免蒙りたいものだといふ氣持が濃厚であつたのであります。ところが今度は昨年九月のミュンヘン會議以後、どうしてもこれはヒットラー政權と近い中に一戦を交へなければならぬといふ風な考へ方が國民の頭に段々に染み込んで、ロンドンではタキシ一の運轉手に「どうだヒットラーは」と訊くと、タキシ一の運轉手は(We will stop him)「俺達があればやめさせて見せる」と云ひ返す位の考へがタキシ一の運轉手に迄染込で居つたといふ状態であります。政界はチェンバレン首相の下に完全に一致して居ります。労働黨も自由黨もチェンバレンの政策を無條件で支持してゐる。それから労働界は一致して軍需品の増産に従事する、さういふ風な状態でありますからして、ホーム・フロントの點でイギリスは殆んど完全な形に於て立上つたといふことが云へるのであります。だからして最も大切な國民に對して戦争の理由を説明するといふことは殆ど必要のない程の状態にあつたのであります。國民に對して戦争の理由を理解させるといふことは戦略上最も重要な點であることは申す迄もないことでもあります。その點でイギリスは有利な地位にあつたことが明らかであります。

それならばドイツはどうか。ドイツは政情の根柢が一變して居ります。前はカイザー・ウイヘルヘルム二世の下に戦争に赴いた。その時は皇帝今日ではヒットラー總統の治下にあるドイツ國民がその忠誠の點に於て同じであるか、或はその間にどれだけの差があるか又前回の戦争はカイザー即ちホーヘンツォルレン家に對する忠誠であつたが今度はナチ黨に對する國民の忠誠は如何かといふ問題であります。ナチの黨員は今日大體ドイツの四割を占めて居ると概算されて居りますが、心の底ではナチ反對の人もあるのであります。あの約七十萬を算へる突撃隊といふものが全國の主要なる村町都會に居りまして、さうしてアンチ・ナチの言動を爲す者はその町から逐ひ出す或は監禁する。まあ日本の幕末に於ける穩密、岡つ引、そのものつと氣の利いた強力な組織が全國的にある。それがナチ黨下に於ける今日のドイツを押へて居る。従つて表面からはこの前の戦争と今度の戦争と、ドイツのホーム・フロントは別に表面には差がありません。ドイツ人は祖國愛の觀念が強烈であります。だから或る一部の論者がいふやうに、カイザーとヒットラー、ホーヘンツォルレン家とナチ黨、この兩者に對する忠誠に多少の違ひがあるといふ見方も、今後の實狀に徴する外はありません。

次に經濟力の點を考へますと、イギリスの方は前回と大體さう違ひがない。ドイツは一九一四年には世界の大債權國で、財政も所謂健全財政の本元であつた。一九一四年のドイツの軍事費が丁度總豫算の五割になつてゐる。さうするとドイツの財政家、實業家、批評家連はこれを以て財政の限度である、軍事費は五割以上絕對に出ることは許さなといふ風な主張をして、政府も亦これを認め、軍部も亦これを認めた時代であります。今日はドイツの軍事費は恐らく八割以上に達するであります。廣い意味に於ては所謂國防國家と稱へられる位であつて、豫算の大部分は軍事費である。しかもその金額は本年度は大體百七十億圓といはれてゐるのであります。百七十億圓といふ軍事費は一寸信じ得られない程の巨額であります。最近六ヶ年間に、少ない場合が八十億、それから百二十億圓の巨額なもの

を軍備充實の爲に使つて來て居る。従つて兌換制度はこの前のやうな完全なものでもない。又正貨は今日七千萬圓しかない、だからして經濟力の點に於ては外交及びホーム・フロントに於ける立場よりも非常なる不利な立場にあることが分るのであります。

それからその次に國民の精神、さういふ點はどうかといひますと、イギリスは只今申上げましたやうな状態でありませんが、ドイツはまだその準備が完全でなかつたと思ふのであります。本年の三月頃からドイツの新聞は非常なアンチ・ブリテイッシュの宣傳を開始しまして、殆どの新聞も毎日イギリスを攻撃しました。さうしてドイツ國民の氣持をアンチ・ブリテイッシュに導く爲に努力したのであります。併し乍らまだそれは完全に國民を諒解させる迄には至らなかつたらうと思ふのであります。昨年あのミュンヘン會議及びその前のゴッデスベルグの會議などの際にチェンバレンが飛行機でミュンヘンなりゴッデスベルグに行く飛行場は歩けない程のドイツ人の市民に依つて歓迎され、ドイツ國民はこの前の戦争から受けた打撃の點に於て如何なる國民よりも深刻でありますから、それだけ戦争を避けたいといふ希望が肚の底に漲つて居つたのであります。一方にヒットラーが全國的に信用を得たといふのも、實はヒットラーの外交的天才が、戦はずして大ドイツの復活の目的を達する、その戦争をしないといふ所にヒットラーの國民的信用があつたのであります。さういふ點を考へますと、愈々戦争が避けられないといふことを國民に納得させるには相當の時期と又重要な材料が必要である。ポーランドの問題の爲にドイツがイギリスと又戦争をしなければならぬといふことはドイツ國民の間に可成り暗い氣持を起させたのであります。この意味から先月ヒットラーが英佛に對して平和を提議した。これは所謂 Peace offences (平和攻勢) と呼ばれてゐる、この平和攻勢といふものは全く

國內政策である。これ程の寛大なる條件を提示するにも拘らず、英國は承知しない。これドイツを滅さんとする爲である。ドイツ國民は飽く迄これと戦はねばならないといふ國民の戰意を確立する手段としてそれを行つた。かういふやうな状態から觀ますと、國內戦線の點ではドイツはイギリスよりも不利な環境に於て戦争に従事して居るといふことが分るのであります。

五

その次に軍事關係に及ぶのであります。軍事關係は大體人力と火力と資源の三つであります。これも細かく申上げて居る時間はありませんけれども、大體人力に於てはドイツは訓練を経た兵力が二百十萬で此點に不満があるやうであります。それは一九一九年から一九三五年迄の滿十五年間、ドイツには徴兵制なるものはなかつた。ヴェルサイユ條約に依つて陸軍を十萬人の職業軍人に制限され徴兵が禁ぜられた。そこで國民は軍事訓練を受ける期間を十五年間失つた。若しこの間に徴兵制が行はれ、假りに四十箇師團の二年兵或は一年兵役で二十箇師團といふものがあつたと假定しますと、その間に約三百萬人の青年が軍隊訓練を受けたことになるのですが、それが丁度ドイツには抜けて居る譯であります。最近六年間に作り上げた兵力即ち約二百十萬が近代戦に役立つ兵隊であります。この點は十五年遊んだやうなものでフランスの陸軍等に較べて非常に損をしてゐるのであります。

今日一般に云はれてゐる火力といふのは、空軍からタンク、大砲、一切のものを含んでゐます。その空軍では最近迄ドイツが世界第一と云はれて居ります。世界第一といつても總ての點で絶對的とは言へません。第一線の實力に於ては世界第一であります。或は機材の點とか、職工の不足とかで弱點もあります。例へば鋼鐵を使はなければならぬ所

に代用品を使ふ爲に強靱性に缺ける點がある。ドイツ空軍の事故が多いのは詰り代用品を澤山使ふといふ所から来て居るのではなからうかといふことが云はれてゐる。大體今日程の大軍備を僅か五年の短日月に充實したといふことは、これはドイツでなければ出来ない素晴らしい事業でありまして、外の國が何十年の歴史を積んで築き上げて既に有つてゐるものを僅か五、六年で作りに上げたといふことは、これは殆んど歴史に例のない大きな事業であります。又それだけに急造につれて何か缺陷があるといふことは、何國と雖も免れないのであります。

第三に資源といふ點ですが、一々各種の物資に就てお話を申上げるやうな時間はありませんから簡単に申し上げますと、ドイツは鐵と石炭では大體自給し得る。ゴムと棉と石油とニツケルと食糧、この點で非常な苦勞をせねばならない。今日機械化部隊を主とする戦争に於きましては、石油の使用量は非常に大量に上り、恐らく机上で計算した所とそれから實戦で消費される所との間には相當の開きがありはしないか。大體一箇年に戦時ドイツは千八百萬トンの油を消費するであらうと計算されて居つたのであります。これは一年経つて見なければ分らないが、今日のやうに西部戦線が殆ど膠着してゐるやうな状態では餘り油が要らないかも知れません。併し乍ら大體千八百萬トンと云はれた。今日自分の國で出来る油、人造の油が大體最大限百六十萬トン、それからルーマニア、ソ聯邦邊りから輸入し得る分量が約五、六百萬トン、それからポーランドを占領して得る所の分量が百萬トン内外と見積られるでせう。いづれにしても日本が惱んでゐるよりも大きい悩みがドイツの上に来るのであります。これはどういふ風にするか。或はルーマニアの生産額を懐ろにするとか、色々なことが考へられて居りますけれども、尠くともかういふ物資の點はこの前の戦争とさう大した違ひがないやうな状態にあるのであります。唯食糧がソ聯邦その他ダニューブ諸國から入つて来る點はこの前の戦争よりも有利である。不利な點有利な點を計算しまして大差がなく幾分有利であるといふやうな程度であらう

と思ひます。

それから兵力の點であります。只今の二百十萬、それから臨時にこれ迄の軍隊類似のものを利用して、今日は三百萬以上のものが動員されて居ります。ドイツの陸軍は強いといふ定評があります。強味としてはその傳統といふところが非常に重大な働きをするものであります。例へば日本の陸軍といふと、將兵は自分は強いもの、といふ自覺を有つてゐる。またこの傳統を汚すまいといふ道徳を有つてその強さを發揮する。ドイツの場合も亦同じであります。これに反してポーランドの如きは、その裝備や何かに於て相當優秀なものを備へて居つたにも拘らず、歴史淺くして矢張りドイツから一溜りもなくやられた。それからドイツの兵は非常に組織的であり、統一があり、従順なのであります。又先程申上げましたヴェルサイユ條約で十萬の職業軍人が許された。それが二十年近く軍隊生活を送つて来て將校の代理として新しい軍を作る場合に細胞組織體の指導者として役立つた。一方に機材の點は三百萬人に對して新しいものが十分に行渡つてゐるかどうか一つの問題であります。

陸軍の點ではイギリスは殆ど問題にならない。尤もこの前の戦争ではイギリスは七百五十萬人の陸軍を動員したのであります。最初は殆んど言ふに足りない、ドイツから子供だと嗤はれた位の兵隊でありましたが、それが一九一八年の十月には遂にヒンデルブルグ線を突破した強大な陸軍に化した。それ故これは戦争の進行に依つて見る外はない。十月十二日にイギリスの陸軍大臣ホーア・ベリシヤが発表した所では、その時迄に十五萬八千の陸軍がフランスの戦線に参加してゐる。又さうしてフランスに運んだ自動車の數は二萬五千臺であるといふことが公表されてゐる。併し一對一でドイツと戦ふといふことは、これは勿論問題外であります。そこで背景としてフランスの陸軍を考へなければなりません。フランスの陸軍は大體平時が七十萬、動員されて、第一期に百五十萬人、三箇月以内には三百萬といふのが大

體の計算であります。武器は六百萬人分だけ備へてゐるが、此處は武器多くして人少なし、ドイツの場合は人足りて武器が足りないといふ對照をなしてゐる。ドイツの強味は先程申上げた通りでありますが、その正反對のものがフランスである。フランスでは兵隊組織、集團活動がドイツに及ばないが、個人々々が戦争をよく知つて居て、隊長を失つても一兵が克く兵としての義務を果すといふ點が丁度ドイツとは正反對になつて居る。大體はフランスの陸軍に對してイタリーの陸軍が立つ譯であります。これは今日黙つて引込んでゐますが、私の想像では恐らく何時迄も中立を守るものと想像致しますから、従つてドイツは一國で英佛の陸軍を引受ける。その場合の兵力は大差ないといふ状態であります。今日色々宣傳がありますけれども、實際の兵力はドイツの二百五十萬に對して英佛の二百萬といふ位に考へて大差ないと思ひます。

空軍の方は現在の兵力はドイツが第一線に約六千機それから一ヶ月の生産力が、八百機と私は計算して居るのであります。それに第二線には三千乃至四千の機數、地上部隊を加へた兵數は約二十萬といふのがドイツの今日の状態であります。その飛行機の中には先程一寸申上げました非常な優秀なものがあり、例へば昨年ウエンデル大尉が作ったメツサーシュミットの戦闘機が時速四六九哩一七といふやうなレコードを作つて居ります。さういふやうな優秀なものがありますけれども、それが揃つて居らない。けれどもその六千機といふ優秀なものが第一線に働き得る。それに對してイギリスは非常にスタートが遅れまして、昨年のミュンヘン會議頃にドイツが約四千五百の飛行機を有つてゐたのに對してイギリスは千七百機位しかなかつた。それにミュンヘン會議はアメリカの批評家に云はせると、ドイツの空軍のプロペラの音で解決したといふ位に空軍が外交の後援として非常な力を發揮した。これを知つてイギリスは本年度の豫算は戦争前に於て空軍だけで三十五億圓といふ豫算が計上されてゐる。最近恐らく三千五百機に達し、一

ヶ月の生産力は八百機、或は極めて近く一千機を一ヶ月に造り得る状態であると思ふのであります。この前の世界戦争の末期には月産は一千機に達した記録を有つた國であります。その後軍需生産力が非常に膨張しましたからして、この程度の生産は間もなくやり得ることと思ふのであります。空軍ではフランスはまだ遙かにイギリスの下にある。今日は先づ大體現有兵力が二千機毎月百五十機といふ程度のものであります。そこで第一線の空軍勢力はドイツと一方英佛各約六千機伯仲の間にあると思ふのであります。

海軍に至りますと、それはもう英獨は比較になりません。極く大雑把に申しましても、イギリスは今潜水艦を沈める爲に活動させてゐるものを集計すると、軍艦が約七百隻、建造中のものが百三十隻、それから大きな軍艦と稱するものが今日三百五隻建造中のものが七十七隻、それに對してはドイツは現在の勢力が大體七十五隻、造りつゝあるものは四十數隻に過ぎません。寧ろドイツとフランスの海軍とが對立する位でありますから英國とは比較になりません。(以上軍備に就ては別章の世界軍備の一般的考察を参照して下さい。)

六

作戦の關係に於きましては、御承知のやうにマデノ線とジグフリート線が對立しましてこれは兩方でインブレグナブルといふことを力説して居る。恐らくこれは容易に抜くことが出来ない。これを攻めるのには非常な犠牲を拂はなければならぬ。併し乍ら私は一九一八年の九月、ドイツ側のインブレグ線が聯合軍によつて突破された跡を見たのであります。ヒンデンブルグ線は一九一五年に築き一五、一六、一七、一八この四年間インブレグナブルであつたのであります。それも一九一八年の九月、遂に突破されたのであります。それを考へますと、或る時機に戦

争の機が熟して、これを破らなければならぬといふやうな時が何年かの後には来るのではないか。それ迄は戦線には大きな戦争は行はれないといふ一般の豫想が大體適中してゐると思ふのであります。空軍に就きましては所謂電撃作戦ライトニング・ウオアこれはイタリーの空軍萬能論者のドーエといふ人の唱へたドーエ戦術と稱するものであります。これをドイツが實戦に適用するものと一般に放送されてゐたのであります。が實際はこれは行はれて居りません。これは軍事の中心、交通の中心都市その他を一舉にして大空襲爆撃を敢行しやうといふのであります。今日迄何故に行はれないかといひますと、この戦術も聊か机上の議論だけであつて、例へばロンドンを見れば、今日既に六百門以上の高射砲が備へられ、尠くとも一千二百機の防禦戦闘機が構へてゐる。空中には更に氣球が繫留されてゐる。さうして地上の諸部隊がゐる、總てのものが完備して敵機の來たるのを待つてゐるのですから、さういふ所へ大切な爆撃機を何百と送つて、果してどれだけの効果が得られるか、そこは戰略の當局者、戰術當局者がよく見極めて濫りにこれを行はないのであります。

私は最初「どうして戦争がないか」と質問された時「それは君達の碁と本因坊の碁だけの相違があるのだ、吾々の碁は一寸便所か何かに行つて歸つて來る間に五十手位打つてしまふけれども、本因坊とか木谷のやうな碁になると、晝飯を喰つて歸つて來てもまだ一手しか打つてゐないといふやうに慎重に構へてやつてゐる。あなた方は自分の碁のやうに歐洲戦争を見てはいけないといふことを云つたことがあります。海軍の場合を考へますと、ドイツは先づ潜水艦に依つて所期の効果を擧げやうとしてゐるのであります。潜水艦は今日恐らく三十隻近くのものが活躍してゐるものと私は想定してゐるのであります。一八一七年の無制限潜水艦の行はれた時ドイツの潜水艦が最も多數活躍した時で七十隻が出動して居つたのであります。さうして後の百三十隻が港にあつた。大體潜水艦は所有量の三分の一が現

場で活躍するのが普通であります。これは有つてゐる水雷の數、航續力、補給の必要、色々な點からさういふ結果になるのであります。潜水艦は組立式で造れば何艘でも造るといふ風に考へられて居りますが、それが出來ても人間の方は組立が利かない。これは多年訓練をして造り上げなければ出來ないのであります。従て今度もドイツは潜水艦に依つて効果を擧げやうとしてゐますが、第一週に六萬二千噸、第二週目には四萬噸、第三週目は二萬八千噸といふ風に段々漸減して、潜水艦の活躍は今日ではドイツの豫期した所よりも遙かに低いのであります。寧ろ機械水雷戰術に依る方が効果が多いといふやうに思ふのであります。

七

さて、戦争は外交軍事以外に政治經濟の狀態それから最後に國民の精力に依つて決せられる。この國民のモラル即ち精神力の點は極めて重大な決定要素であります。イギリスが開戦と同時に先づ三年戦争を公言したのは詰りドイツのモラルを挫かうドイツがまた水雷戰術に依つてイギリスを挫かうといふのも、またイギリス人のモラルを挫かうといふ點にあるのであります。大體そのモラルは戦況や食糧や、前途の希望や、戦争目的等によつて支配されます。東洋に於ては孫子、西洋に於てはクラウゼヴィッツと東西並び稱せられるドイツの戰略の大家が、既に一八一三年の昔に「戦争は國民のモラルに依つて決す」といふことを言つて居る。そのモラルは軍隊が戦争の理由を信じ、また國民が戦争の必要を確信して、さうして戦ひ續けるといふ所にあるのであります。ドイツの方は成るべく短期にこれを片付けたいといふ風に考へて居たが、イギリスは反對に長く戦ふ作戦であり、相手の方が止めなければ短期間に收めるといふことが困難でありますから、ドイツも肚を据ゑて立直るといふ現状であります。そこで戦争は

何年續くか勝敗の数はどうかといふ問題が起りますが、苟くも責任を重んずる人の口からは容易に返答し得られないものであります。唯自分達銘々がこの戦争はかうなるのではないかといふ風に各自が判断するより仕方がない。私もこゝでどちらが勝つといふことを申上げることが躊躇いたします。唯皆さんが自ら御判断なさる場合の参考として以上のことをお話致した次第であります。(終)

世界軍備に關する一般的考察

一、軍事費の激増

本日は世界の軍備競争に關する一般の軍事情勢に付て御話し申し上げます。歐洲は政治的にも思想的に對立して居りますが、軍事的にも對立して居ります。それを陸軍と空軍と海軍の三方面に亘つて一應考察して見たいと思ひます。先づ陸軍の問題から御話して見たいと思ひます。其の前に一應大體の規模を申し上げますと昨年度の世界は軍備費の爲に五百七十億圓の金を使つて居ります。今日では吾々でも物價騰貴或は精算規模の宏大と云ふ點から貨幣の單位を呼ぶのに非常にリベラルになつて居ります。億と云ふ數字は大して驚かないやうになりました。三十年前滿鐵が出來た當時に後藤新平伯が、撫順の炭礦を一本の豫算で投資金百萬圓なりと撫順炭礦費に計上したことが日本の問題となりまして、百萬圓と云ふ様な莫大なる金を計上するには餘り杜撰であると云ふ様な氣の小さい人々の非難があつたことを回顧するのでありますが、今日では百萬圓は稍もすれば私のポケットにも入つて居るかも知れないと云ふ様な非常に小さい金になつて了ひました……………。其處で五百七十億圓と云ふのはさう大した金ではないと云ふ風に感ぜられるかも知れませんが、今から丁度六年前、一九三二年の世界の軍事費が全體で二百二十億圓になつた事があるのであります。其の時は世界を擧げて大軍備競争期來ると云ふので言論界一般、批評界或は政治界、經濟界に於て凡て之が話題になつた、纏て戦争でも起るのではないかと假想したのであります。夫れはつい六年前のことであります。

夫れが今日では其の三倍に近い金額になつて居ります。之を以て如何に今日の國際的對立と軍備の競争が烈しくなつて居るか云ふことが解るのであります。

更に遡つて此の前の世界大戦争の起つた一九一三年には何れだけの軍備費を世界が使つたかと申しますと、日本、ドイツ、イタリー、イギリス、アメリカ、フランス、オランダ、ロシア、此の世界の八大國が使つた總額が百三十億圓であつたのであります。此の百三十億圓は當時は愈軍備費の爲に大國は破産するであらう。或は又戦争に依らざれば之を解決する事が出来ないと云ふ風に云はれたのであります。其の金額が百三十億圓であります。昨年夫れが五百六十億圓、更に本年は大體實に六百五十億圓の巨額に昇るのであります。來年は恐らく七百億圓を突破するのではありません。さう云ふ風な巨大なる軍備費は果して何時迄各國民の耐へ得るところとして續いて行くか此處に大きな問題が横はつて居る譯であります。

此の六百億圓以上の軍備費の中各國の主なるものを挙げますと、イギリスの本年度の豫算は約百億圓であります。日本の二ヶ年間の對支戦争軍費と殆ど變らない金額を一箇年の軍備費に使つて居ります。夫れよりも多いのがドイツでありドイツの豫算は之は公表されませんから正確な數字は分りませんが、外國の専門家が推算する所に依れば、大體百五十億圓といふ推算でありまして、國民の所得の四割六分が此の軍事費の爲に統制されると云ふ様な計算であります。アメリカは約四十五億圓、夫れからソ聯邦が約八十億圓イタリーが三十億圓、フランスが約四十億圓、斯う云ふ風な形勢であります。之だけの莫大な金を以て列國は何う云ふ風な軍備を爲しつゝあるか。

二、陸軍の比較

陸軍の關係に於きましては其の牛耳をとるものは矢張りドイツであります。ドイツの陸軍が世界一であると云ふ事は先づ異論のないところであります。今日常備せられて居るところの師團數は歩兵五十師團夫れに機械科師團が五つ其他獨立機關銃隊二十六隊、騎兵三師團、夫れ等を加へて約九十萬の常備軍があるのであります。夫れに一箇年以内の動員し得る兵力が今日の常備軍と共に約二千萬、三箇月以内には約三百萬の大軍を動員し得るのであります。之はアメリカの専門家が算定した數字であります。フランス側で算定したところに依りますと、全部訓練を終へて居る常備員が九十萬、夫れから半ば訓練を終へて居る者が二十五萬、豫備兵が六十萬、夫れに軍隊類似の團體中訓練充分と認められる者が二十五萬、合計二百十萬が三箇月以内に動員せられると云ふのがフランス側の計算であります。何れにしても二百萬から三百萬の大軍が開戦後百日以内に東西の國境に出征することが出来るのであります。武器は三百萬人宛は用意してあるのであります。

之に關聯して西部國境には、近々三百キロに亘る所謂ジグフリード防禦戰と云ふのが築かれて居ます。此の防禦戰は大體地下式の堅壘でありまして、地下の重要な部分全部は全部堡壘であります。その防禦起點とする中心點は宛もヤマトホテル程度のもが土の下に埋つて居るものと見て間違ひないのであります。さうして其の表面には戰車阻塞線即ち戰車が通れないやうにコンクリート杭を林立させた、幅十米の長い地帯でありまして、戰車は此の柱に打突つて通ることが出来ない。夫れから其の後に空軍防禦地帯と云ふのがありまして、之は探照燈と高射砲と空軍部隊とから成り、空中から攻め入らうとする敵の空軍を防禦するのであります。之等の防禦線をジグフリード線と云ふのであります。此處には二十萬から二十五萬の守備兵が守つて居りまして、残りの六十萬から七十萬が國境に何時でも動員される様な形になつて居ります。

イタリアは何うかと云ひますと此處には大體常備軍が三十箇師團夫れに機械科師團が五つ快速師團が五つ、夫れにアルプス師團と云ふのが五つ合計四十五師團五十萬人が常備され、それに豫備兵が四十萬で合計九十萬が開戦と同時に出勤し得る様になつて居るのであります。此の中にはエチオピア其の他に駐在して居るのもありまして、全軍直に國境に赴く譯にはいかなのでありませうが、而し三箇月以内に動員し得る兵力が、大體百二十萬程度と見て差支へないと思ひます。夫れで獨伊の現在と云ふものは陸軍に於ては開戦百日以内に四百萬が動員せられると思つて間違ひないと思はれるのであります。

之に對して第一に其の矢面に立つのはフランスの陸軍であります。フランスは既に歐洲に於ては勢力を失ひ恰も第二流國の様に簡單に評價されて居りますけれども實際は必ずしもさうでなく、殊に陸軍は歐洲の一流の強さを持って、嚴として存在して居るのであります。フランスの勞働階級或は政治階級、實業界は假令腐つてもフランスの陸軍は岩の如く嚴として動かないのであります。フランスは此の陸軍あるが爲に依然として世界の強國として残つて居るのであります。其の武器はドイツ側から見ても始ど優劣なしと云ふ位に評價され、又其の戰術戰略又將校の訓練夫れ等は矢張り長い傳統の下に、強力なる存在として認められて居るのであります。フランスに於ては常備歩兵師團が二十箇師團、夫れに遊撃五箇師團夫れから騎兵五師團、此の三十箇師團を中心とするのであります。此の師團がフランスに於ては他の國よりも大きくて大體將校が四百三十人夫れに兵士が一萬六千三百人、即ち普通の國の師團よりも兵數が多くて、夫れに三千五百の馬と一千三百以上の馬車がついて居ります。其の他に自動車五千臺と云ふものを備へて、平素から訓練に當つて居るのであります。其の師團が三十、その兵力四十八萬と云ふものが常備して居るのであります。處がフランスは御承知の様に人口が足りないから思ふ様に常備軍を備へることが出来ない、爲に黑人軍を訓練し

て之をフランスの戦場で使ふ事にして居ります。其の兵力が約二十萬人合計七十萬人がフランスの陸軍であります。フランスは資材が非常に豊富でありまして、之はドイツ側の計算に依りますとフランスは四百萬人分の武器を持つて居ると云はれて居りますが、夫れだけあつても人が足りません。先づ我々は開戦百日以内に動員し得るフランス陸軍は百五十萬と算定して大して間違はない様に思ふのであります。さうしてフランス陸軍の強味は將校が豊富であること夫れから各兵士が各々戰術に長けて居りまして、一人々々離れても尙自分の判斷で相當の戰爭が出来ると云ふ風に訓練されて居ります。其の弱點は組織隊として一團になつて打突かる場合に足並が良く揃はない點であります。恰度之がドイツと正反對になつて居ります。フランスの強いところはドイツの弱味で、フランスの弱點がドイツの方では強味となつて相對立して居るのであります。夫れから先程申し上げましたジイクフリード線に對立してマジノ線と云ふものがあります。マジノ線は有名な名前であつて蒋介石もマジノ線を持つて居る。ソ聯國境にはマジノ線があるチエツコスロバキヤにもマジノ線があると云ふ風にマジノ線は非常に有名な言葉であります。一九二六年でありましたか七年かのフランス陸軍大臣の名前でありまして、彼が陸軍大臣の時にマジノ防禦戰と云ふものを考察しまして、さうしてフランスの國境蜿蜒二百軒に亘つて、ジイクフィールド線よりも數年先に此の地下式堡壘を造つたのであります。二キロ毎に攻防の起點がありまして、其の間は皆地下で連絡します。其の攻防起點の堡壘は二十吋のコンクリートと夫れから五十吋の砂と十吋の鋼鉛とで俺はれて、二噸の爆彈も四十三糎砲も如何なる威力も此の防禦堡壘を破ることは出来ないと思はれて居ります。此線からはドイツの一兵を入れないと云ふ戰法でありましたが、其の線が今度は更に後に増築されました。第一、第二のマジノ線となつて居るのであります。其處には平時二十萬の兵があるのであります。此のマジノ線があればフランスの西部國境は安全であると云ふ風に一般國民に確信されて居るのであります。

次にフランスと同盟關係にあるのがイギリスであります。イギリスは其の陸軍が頗る微力であります。今日正規軍として常備師團は五箇しかありません。夫れに豫備軍を加へて二十一萬五千人の陸軍を作ると云ふことの爲に此の十年間苦心したのであります。容易に目的を達しないので、遂に本年の四月愈徴兵令を布いて陸軍を三十五萬に擴張することになつたのであります。然し乍ら今日は未だ其の中途であります。従て三箇月以内に大陸に送り得るイギリスの數は何れだけであるか見當が付きません。世界戦争當時は名門の子弟が争つてフランスの戦争に赴いたのであります。今日も果して世界戦争當時と同じであるか如何か、夫れから考へまして大體先づ百日以内に三十萬を送れば大した成功と計算されます。そこで英佛軍の動員兵力は多く見て二百萬としますと、即ち獨伊の動員兵力に比較して半分しかないと云ふのであります。其處で問題になるのがソ聯邦であります。ソ聯邦はフランスの同盟國であります。又最近はイギリスの方からも種々此處に呼び掛けて、ソ聯邦の力を貸り様として居りますが、其のソ聯邦は我が當局者の計算に従ひますと、大體正規軍が歩兵が六十箇師、騎兵團が二十箇師團で合計八十箇師團で、其の兵力百三十萬人と云はれて居ります。夫れに民兵軍と云ふのがありまして、夫れが二十五師團で、約三十萬合計約百六十萬の常備軍を持つて居る計算であります。然し民兵軍の訓練は正規軍には劣るのでありますから、先づ常備軍百三十萬と見るのが妥當でありませう。夫れが第一期の動員の場合には大體百八十五萬人、百日以内には三百五十萬の軍を動員し得ることになつて居ります。夫れからあの第一次、第二次五箇年計畫に依て軍が機械化され、今日では戦車の數でも約五千五百と云ふ數字でありますから、最多の戦車を持つ機械化の陸軍であります。其の實力の程度は其の人數と比例して強いとは思はれませんけれども、歐洲に於ては尙相當な戦闘力を有する陸軍として認められて居るのであります。以上の諸國の次に歐洲第五位の陸軍國として存在するのはポーランドであります。ポーランドは大體數年前から大

體三十箇師團の常備軍を持つて居ります。三十箇師團約四十萬の常備軍を持ち、さうして五百臺の戦車、七百の空軍殊にポーランドの騎兵は自ら稱して歐洲一と稱するのであります。最も有力なるものの中の一つとして今日では實際に於て約百萬の陸軍が國境に動員されて居るのであります。ポーランドは三千四百萬の人口であります。何うして多數の陸軍を持つて居るか云ふと、ポーランドは集中陸軍主義でありまして、特に男子の出産率が非常に高く例へば世界戦争後の十數年間ドイツが平均五十九萬五千人の男兒を生産したのに對し、ポーランドはドイツの半分の人口であるにも拘らず、一箇年五十萬五千人の非常に多産な國民であります。さうして陸軍集中主義を採つた結果陸軍の兵力は非常に豊富になつたのであります。之が偶々本年三月から四月にかけて、英佛がポーランドを自分の味方に引き入れる爲に成功したのは専らポーランドの陸軍に俟つところがあつたからであります。其處で獨伊の四百萬に對してポーランドを加へると英佛波の三國が三百萬の兵を動員して、一方にスペインのフランコ政權の兵力五十萬として此處に四百五十萬對三百萬と云ふ數字が出て來るのであります。夫れが若し英佛に加はれば此のバランスは破れまされども、今日の狀態に於ては兩軍の對立は四百五十萬對三百萬と云ふことで差支ないと思ひます。

三、空軍の對峙

然らば空軍の方は何う云ふ風な状態になつて居るかと申しますと、之は空軍に關する調査は非常に困難なことであります。實際の數字は皆んな各々知つた様な事を云つて居りますが、恐らく何人も正確には分らないと思ひます。知つて居るのは其の國の少數の當局者だけでありまして、何うも國外から之を正確に云ひ當てることは出來ないのであります。私は各方面の材料を集めまして大差のないと云ふ數字を申上げて見たいと思ひます。空軍の問題に付て最も

興味の深いのはドイツとイギリスの空軍の争であります。ドイツが非常な勢を以て空軍を擴張し居ると云ふ事實に對して一番神經を病んだのは勿論イギリスであります。何故ならばロンドンに常にドイツ空軍の襲撃の的となるのでありますから、イギリスは之を防禦する爲にドイツに劣らない空軍を常備する必要に迫られて居るのであります。其處で一九三七年例の有名な二百五十五億圓五箇年計畫に於てエーア・パリテーつまり空軍平等計畫を決めました。之はドイツと同數の空軍防備を持つと云ふ意味であります。其の政策の下に英吉利は一九四〇年末迄に第一線に二千三百七十機を常備すると云ふ計畫を樹てまして、さうして航空機を作り體力を養ふと云ふ様な政策を進めて來たのであります。ところが昨年の夏頃になりますとドイツが何うも四千機に近い空軍を持つて居ると云ふことを發見したのであります。一九三八年に四千機持つて居るものに對して一九四〇年に二千三百七十機では何うしたつて同じになる理窟はないのであります。其處で非常に驚いて空軍の大擴張を開始したのであります。さうして居る中に明年九月のチュッコスロバキヤの危機即ちミュンヘン會が開かれたのであります。其のミュンヘンの會議の當時イギリスが全部掻き集めた飛行機の數が約千八百、之に對してドイツの空軍は既に四千に近いのであります。夫れと知つたイギリスは之は大體對獨交渉で強い主張をすることが出来なくなりました。遂にドイツの要求に従つた。そこでミュンヘン會議の成功はドイツ空軍の優勢の爲に齎らされたものであると云ふのが外交批評家及軍事評論家の提論になつて居ります。四千對一千八百では相撲になりませんので、それからイギリスは航空大臣を取換へたり、また産業王としてアメリカのフォードに對照されるナツフィールド卿に航空工業の方に全力を儘す様に依頼し、又從來あつた「影の工場」と云ふものを總動員しまして、さうして空軍の建設に全力を擧げたのであります。顧みるに第一次世界戦争の最後の年にはイギリスは世界第一の空軍國であつて、其の時には一箇年に一萬二千の飛行機を造つたと云ふ記録を持つて居ります。平

均月に一千機宛作り上げたと云ふレコードを持つて居るのであります。それが一九三八年昨年のミュンヘン危機の當時は一箇月の平均生産力は二百程度であつたのであります。夫れ以來先程申し上げました様な大努力の結果一月には三百、二月には三百五十と云ふ風な加速度的に累進しまして、最近詰り六月には七百臺の飛行機を一箇月に造り出したと云はれて居ります。それから今年度のイギリスの空軍豫算は實に三十五億圓に上つて居ります、空軍だけに三十五億圓を費すと云ふ事は非常なる發憤であると同時に又夫れだけの生産物資及資材を動員し得る確信の下にあることが分るのであります。恐らく今年末には相當な勢力を回復するのではないかと思つて居るのであります。

夫れから其のイギリスの空軍の刺戟したドイツの空軍は何うかと云ひますと、ドイツの空軍は一九三三年に始めて出發した非常に新しい空軍であります。其れまでは條約に依て空軍を持つことを禁ぜられて居つたが、ヒットラー總統が政權を握つてから始めて空軍を作り出したのであります。さうして其の空軍の大部分はアメリカのプラットア・ンド・ホキツトニーと云ふ航空會社から買込んだのであります。エンケル、ハインケル、メツサーシュミット、といふやうな有力なる航空機は大體此のアメリカの發明を基礎として之に改良を加へたものであります。夫れで専門家は一九三三年のドイツ空軍の大多數はアメリカの飛行機で、又一昨年分の五分の一はアメリカの飛行機と算定して居りますが、兎に角ドイツ空軍を今日あらしめた一番の功勞者は焉ぞ知らむアメリカなのであります。さうしてドイツはゲイリンド元帥の下に黙々として空軍の建設に邁進して居るのであります。一九三六年迄は空軍の將兵は一回もユニホームを着けたことはなかつた。皆平服で世界の目を掠めて空軍の擴張を志して來たのであります。其の結果ドイツの空軍兵力は何時の間にか世界の脅威の的となりまして、今日では恐らく毎月矢張り六百から七百機の航空機を作る、さうして現在の勢力は多分第一線に六千機の兵力を持つて居るのだらうと思はれるのであります。

歐洲は御承知の様に國境が接して居りまして今ドイツから英京ロンドンを襲撃するには一時間かゝらないのであります。またイギリスからベルリンを襲撃するには早い爆撃機ならば二時間一寸で到達するのであります。さう云ふ風な關係から空軍の競争と云ふものは他の軍備、即ち陸軍海軍に比して一層の烈しさを持つて進められるのは當然であります。我々市民は敵の陸軍を見ると云ふことは負けた場合には見るでせうけれども、大概戦争中は眼の當りに見ると云ふことは殆どありません。ところが空軍は自分達の頭の上で直接に見るのであります。したがつて之に對する國民の笑心は自ら眞剣を加へます。従て競争が激化するのも當然であります。其のドイツの生産力はヘンリ・ポツセと云ふフランスの航空専門家の説に従ひますとフランスの四倍以上ださうです。ドイツは一週間に飛行機工場が六千九百萬人時だけ働くのに對し、フランスの方は百六十八萬人時即ちドイツの四分の一しか働かないのです。昨年の危機に於てドイツの飛行機月産四百に對して佛は僅に七十機しか作る能力がなかつたと云ふのも必ずしも嘘ではないと思ふのであります。さう云ふ風な状態から見ますとドイツ一國の空軍は尙今日英佛を合せた兵力に優るとも劣りせん。最近の數字は判然しませんが昨年末でしたならば第一線に最も精銳を誇る飛行機はドイツが四千五百、夫れに對してイギリスが一千八百、フランス一千二百、英佛合せて三千で矢張り先程の陸軍の場合と同じ様に三對二と云ふ比較になるのであります。恐らく今日ではドイツが既に六千五百程度になる、夫れに對して英佛の追撃が急でありまして約五千詰り六千五百對五千と云ふ様な情勢であらうと思ふのであります。ところがドイツには其の同盟國としてイタリアがあります。イタリアの空軍二年前には世界一と云はれたのであります。ドイツのゲーリング元帥がイタリアを訪問した歸りがけに遺憾乍ら貴國に二年間遅れたと云ふ言葉を殘して去つたと云ふ位であります。ゲーリング元帥も御世辭を云ふ事は知つて居るでせうから多少の御世辭は含まれて居りませうが、夫れでも尙イタリアの空軍が優秀なもので

あつたと云ふことは明かであります。

元來イタリア人は機械を扱ふことが非常に上手な國民であります。又機械を作ることも従て勝れて居ります。だから潜水艦とか水雷艇とか自動車飛行機、さう云ふものはイタリア製のものには相當優秀なものがあります。夫れから國民も亦機械を扱ふことを好みまして、空軍の募集をしますと大體定員の三倍位の人が集まる。之はイギリスやフランスに比して非常に違ふ點であります。また有名なドーエと云ふ空軍元帥も伊太利人です。今日ドウエ戰術として一般に論議されて居る空軍に依る戰術であります。開戦と同時に何千の飛行機を持つて敵の都市工場を自茶苦茶に叩潰して了ふ、夫れが詰り戦争を短期間に終らせる唯一の戰術であると云ふことを云ふのであります。今日はサボイヤ、フアイト、ロウレンチと云ふ型の飛行機は何れも世界の優秀なものであります。又イタリアは歐洲では一番多くの航空根據地を持つて居る國であります。あのエチオピア危機の時イタリアの空軍がイギリスの地中海艦隊を抑へつけてイギリスの容喙を事前に威壓したと云ふ物語りも、之は戰略的に考へますと必ずしも全部が當つて居る譯ではありませんが、偶々イタリアの空軍が強力であること及イタリアが空軍を利用するのに最も適切な根據地を多數持ち、兵力も持ち技術も進歩して居ると云ふことを説明したのであります。現在の勢力は第一線に約二千機ありますから、毎日生産し得る能力が二百から二百五十の間にあるものと思はれます。

其處で之に對抗するフランス空軍の研究でありますが、フランスは今日イタリア以下の空軍を持つて過ぎないのであります。曾て世界空軍の王者と云はれたフランスが今日では遂に世界第五位乃至六位の空軍國に轉落して了うたのは何う云ふ譯かと申しますと、種々原因がありますが其の第一は空軍の場合には永く世界第一と云ふ地位で保てないことであります。歴史的に見ましても曾てフランスが世界第一であつた時代の歐洲戦争後の十四五年間でした。其の次に

世界第一として現はれたのが間もなくソ聯邦であります。ところが間もなく夫れよりも優れた空軍を持つてイタリアが登場し今度は轉じてドイツが其の王者の地位を奪ふと云ふ様になりました。蓋し空軍の飛行機は文字通り日新月异でありまして、海軍や陸軍の様に永い間絶對優勢な地位を保つと云ふ事は出来ないであります。其の最も著しき例としてフランスの空軍は今や獨、伊、英、蘇、米の諸國の下方にあつて昨年の危機の當時は、月産僅か七十機第一線の飛行機は千二百しかないと云ふ様な慘憺たる状態にあつたのであります。其處でミュンヘン會議で苦い汗を吸つた後のイギリスが非常なる速度を以て擴張に従事したのと平行して、フランスも又急激なる擴張に着手しまして、今日では大體一箇月に百五十機位生産する迄の力を回復した。之は空軍大臣のラーンヤンブルと云ふ人が今年末には二千五百機の飛行機を第一線に備へるから此の點は安心して貰ひたいと云ふことを確言して居ります。さうなりますとドイツとイタリアの空軍兵力はドイツが大體五千五百、イタリア二千、合せて七千五百、之に對しましてイギリスの今日が大體三千五百フランスが一千五百と見積つて五千にしかならないから、七千五百對五千、此の點も亦三對二と云ふ兵力の比較と見て間違ひないと思ひます。其處で陸軍の場合と同じ様にソ聯邦と云ふのが又大きな役割を努める譯であります。ソ聯邦の飛行機はノモンハン邊りでは落ちることを目的として飛んで居た様な風に思はれますが、然し乍ら歐洲に置きましては必ずしも弱い空軍ではありません。スペイン戦争の場合には相當の戦ひをして居るのであります。フランスの前航空大臣のコットと云ふ人の計算に従ひますと、ソ聯邦の空軍は第一線が二千二百夫れから豫備機が二千二百、練習機が二千二百合計六千と云ふ事になつて居ります。英佛は此のソ聯邦の空軍を實は狙つて居るのであります。然しながら今日迄のところソ聯邦も中々之にウンと云つて應じない。結局獨伊の七千五百機に對して五千といふ劣勢であります。そこで此のバランスを打ち破るか何うかがアメリカの進退如何に依て決するのであります。

アメリカは今日は海軍機が二千、陸軍機が一千ですから常備軍の兵力としては割合貧弱でありますけれども、アメリカは今日世界で一番多くの航空機製造會社を持つて居ます。一昨年の統計では夫れ等が軍用機として作つた數が一千、民間に作つたのが二千三百其の他が六百三十合計三千九百六十の飛行機を一箇年に作りました。昨年度は矢張り軍の爲に一千、民間に二千五百夫れから世界に輸出した額が其の他に八百合計四千八百機を作つて居ります。之は一箇月に四百機宛作つたと云ふことになるのであります。民間の爲一昨年は二千三百、昨年は二千五百と云ふ風に大きな數を作つて居るのは民間航空が世界第一である反映です。即ち世界全體の一箇年の走行哩よりもアメリカ一國だけの方が多いためあります。今日はアメリカには二萬一千人の民間飛行家が居ります。さうして民間機として登録されて居る數は一萬一千五百であります。實に驚くべき航空資源であります。昨年から問題になつて居るフランスの六百機の註文、イギリスの四百五十註文、日本も亦昨年はアメリカの海外輸出の中では一番多數の分量を購入したのは此大資源からであります。此のアメリカが英佛を後援することに依て歐洲の空軍のバランスは破れるのであります。

四、海軍の優劣

夫れから第三に海軍の情勢を御話申し上げます。イギリスが矢張り世界一の海軍國であると云ふ事實は今日も變るところがありません。現在イギリスが作つて居ります。軍艦は三萬五千艘の戦艦五隻、四萬艘の戦艦二隻夫れから巡洋艦が十九隻、驅逐艦が二十四隻、航空母艦が五隻、潜水艦が十五隻、合計七十隻であります。其の七十隻の大小の軍艦を作りつゝあると云ふことは普通の國では不可能事に屬するのであります。其の外に多數の防禦艦之はエスコートバツセルと云ふ潜水艦を防禦する特異な千艘級の軍艦であります。其の他スウェットペーン型の五十艘の水雷艇を（潜

水艦を撃つ爲に作つたのであります。大體私の計算では百隻ほど現在造りつゝあるものであります。來年になりますと更に四萬噸級の戦艦二隻が起工される譯でありますから、夫れを中心として軍艦の数は更に増える筈であります。夫れから現在の勢力としましては、イギリスは戦艦が十五隻、巡洋艦が六十、驅逐艦が百六十九、潜水艦が五十三其の他種々のものを合せますと、約四百隻近い軍艦を持つて居るのであります。かう云ふ風な海軍力と、それに今日造りつゝある又來年も起工されるであらう擴張に依りまして、一九四二年には二十五隻の戦艦を初め五百隻に餘る大海軍が復活するのであります。それに英吉利海軍は傳統的に闘志旺盛であります。私は海軍の研究者として世間一般の人がイギリスの海上兵力を非常に軽く見て居ると云ふことに何時も反對して居ます。英海軍は侮るべきものでない。能力の點からしても現に持つて居る兵力からしても矢張り世界第一の海軍力を持つて居る事だけ明かなのであります。

唯イギリスの弱點は海上國防線が七萬五千軒の長きに亘つて居ることでありまして。さうして其の使つて居る石油の全部、食糧の六割が皆此の海上國防線を通つてイギリスの本國に達するのであります。夫れ等必需品の輸入は商船に依る外はありません。其の商船はどれ位活動するかといひますと、例へば昭和十四年の七月二十六日と云ふ日を取つて見ますと、海の上に三千噸以上の商船が千九百隻動いて居ります。夫れから北海其の他イギリスの近海に大體千七百隻の商船が現に走りつゝある。それから世界の各港の中に停泊して居る商船の数が七百隻夫れからイギリス國內のドックに入つて來るのが三百隻合計四千百の商船が之等七萬五千哩の國防線を傳つてイギリスの生活を守つて居るのであります。之が非常に弱點でありまして世界戦争の當時にはドイツは此の弱點を衝くことに依つてイギリスを征服しようとした。即ち潜水艦戦法に依つてイギリスの海上交通線を攻撃し其結果沈めた商船の数は約三千隻、噸数が七百五十萬噸の多きに及んだ。かう云ふ風な弱點を掩護する爲に大海軍を建設して居るのであります。之は人に依つては此の弱

點のみを指摘し又人に依つては其の強味のみを見ますが我々はイギリスの海軍を論ずる場合には斯う云ふ風な二つの方面を見る必要があると思ふのであります。唯イギリスが依然として今日世界の最強の海軍を持つて居る事は明かな事實であります。

次にはアメリカの海軍であります。アメリカの海軍は滿洲事變以後俄に海軍の擴張に従ひました。當時有名であつたスチムソン國務長官が海軍力不備を感じ一九三三年には産業復興法に依り擴張し三六艘の補助艦十二萬噸を作り其の翌年の一九三四年には所謂ビンソンの百二隻六十四萬噸の大型戦艦六隻以下百二艘を造り夫れが一九三八年には第二次ビンソン案として其の二割を擴張すると云ふ案を決定しました。其の案に依る擴張が七十二艘四十二萬噸。之等三回に亘つて擴張の結果アメリカの海軍力は二、三年後には一新するのであります。イギリスのシンガポール中心の極東艦隊も一つの有力な存在にはなりませんけれども何んと云つてもアメリカの海軍は其の全力を擧げて後太平洋に遠征し得るのでありますから其の點でアメリカの海軍には最も大きい關心を持たねばなりません。今日造りつゝある五艘の戦艦は今年中更に一隻起工しますから六艘となり更に夫れから今年末に起工するであらう四萬五千噸の有力な大戦艦一艘は千萬弗から一億弗と云ひますから日本の金に直しますと一隻で三億使ふと云ふ強大なる戦艦であります。此の戦艦を初め航空母艦に於きましては日本の現在の各航空母艦に比して劣らないものを持つて居ります。レキシントンサラトガの名は日本人は誰でも知つて居りますが其の外に今ではレンヂャーとかワズプとか云ふ様な七十五の飛行機を載せる航空母艦が既に四隻も出來上つて居るのであります。夫れから巡洋艦の艦隊に於きましては從來は非常に不備でありましたが今日では相當の兵力を備へ、現在作りつゝあるものが二三年後に完成すると新鋭四十隻四十五萬噸位の巡洋艦が整ひます。次に驅逐艦は大體二百五十五隻持つて居りますが實際働けるのは五十隻位しかない

のであります。之が弱點であります。アメリカの主力艦隊が大西洋に参戦する場合には驅逐艦の不備と云ふことが非常にハンディキャップになるのであります。之を補ふべくピンソン擴張案が成立したのであります。今日はクレープン型とかソマースとか云ふ様な新型の驅逐艦が出来ました。夫れ等は何れも約六千哩から七千哩の航續力を持つと云ふ驅逐艦であります。之等がウエイキミツドウェーを根據地として作戦する場合には油を補給せず二、三週間我が近海に作戦することが出来るのであります。夫れから潜水艦も亦相當なものを作りつゝあります。其の結果大體一九四二年になりますとアメリカは二十一隻の主力艦八隻の大型巡洋艦夫れから四十五隻の輕巡洋艦、百四十五隻の驅逐艦、約六十隻の潜水艦斯う云ふ風に大體二百八十隻百五十萬噸の新しい海軍が整備されることになるのであります。更にアメリカは大西洋艦隊と云ふことを目的にして居りますが、之は今の所では些か空想に近いから私は少時之は論外にして置きたいと思ひます。日本との關係があるのでアメリカ、イギリスの事を遂長く喋り過ぎました。

之から簡単にドイツの事を一寸申し上げます。ドイツは前に御話した様にベルサイユ條約で海軍を十萬噸に制限されました。それを一九三五年のイギリスとの協定に依てイギリスの三割五分を造ると云ふことに決定しました。其處で今日ではあの有名な懷中船艦が三隻あります。夫れに一昨年出来上りました二萬六千噸の戰艦と去年進水しました三萬五千噸級が二隻之等を主力とします。夫れから巡洋艦が十六隻、潜水艦が之は六、七十隻になると思ひます。約二十五萬噸の勢力ですから英吉利とは太刀討が出来ません。

イタリーの方はどうかと云ひますとイタリーは戰艦を持つて居ることは持つて居りますが、實際に見ますと新しい戰艦は一隻もないのであります。日本の陸奥、長門、伊勢、山城と比較し得る戰艦は一隻も持つて居ないのであります。恐らく今年の末になりますと三萬五千噸級の大戦艦が二隻出来ると思ひますが、現在は少し古い戰艦が四隻ある

だけであります。夫れを中心として或程度の海軍力、巡洋艦が二十隻夫れから驅逐艦が六十五、潜水艦が八十五隻あります。潜水艦は今日ではイタリーが歐洲では一番強いのであります。この外に百隻以上の水雷艇を持つてイタリーの海軍が地中海に於て英佛と争ふといふ建前になつて居ります。しかし其場合にはフランスの海軍がイタリーよりも幾分優勢ではあることを知るのであります。そこで獨伊對英佛の争ひを見ますとイタリーとフランスは恰度帳消になつてドイツとイギリスが對立することになるのであります。其の場合にはドイツの現在の兵力はイギリスの四分の一しかないのでありますから、海軍力に於ては獨伊側が遙に及ばないといふ状態であることが判ります。

以上を通観しますと、陸軍に於ては獨伊側が三、英佛側は二で三對二。空軍に於きましても矢張り獨伊側の三に對する英佛側の二、之も三對二であります。海軍の關係に於きましては今日に於て獨伊側は英佛の半分にも及ばない譯であります。軍艦の方は空軍と違ひまして側へば戰艦を造るのに三年以上、アメリカ等は大概大きいのは四年かかります。さうして會員が養成せられてあの十六吋砲の把手を動かして波の高いのに敵を間違なく打つと云ふ風になるには少くとも七年位の訓練を要するのであります。だからして空軍が早く相手に追附くと云ふ風には到底いかないのであります。陸軍も亦簡単に兵力だけを増すと云ふことに依て強さを増すと云ふ譯には行きません。大體を見ますと陸軍に於てはドイツ、海軍に於てはイギリス、さうして空軍に於ては獨伊が今日稍三割方優勢であり、それを英佛側が追つきつゝあると云ふのが今日の世界に於ける軍備の趨勢であります。

此の如くにして各國は自分の不安を除かうとして居るのであります。しかし其の軍備の擴張が或は偶々却つて相手の軍備を増す原因にもなり果して不安を除けるか何うか判りません。しかも今日の實情に於ては軍備充實に依て護る外に方法がない有様でありますから、此の競争の形勢は暫く停止することがないだらうと思はれます。この競争の

終局は戦に依て解決するか或は事前に外交協定に依て解決されるかどつちかの途しかないのでありますが、今日の形勢から見ますと軍縮時代と云ふものは到底問題にならないで、列國は尙ほ擴張の爲に争ひを續け前者の道を歩むやうに思はれるのであります。之で大體軍備に關する各國の狀態のお話を終ります。

以上

